

第24回母から子への手紙コンテスト 入賞作品を紹介します

原文のまま掲載

そろそろ帰ってくる時間。つかかけをはいて表へ出ると、ランドセルを背負い、下を向いてゆっくり歩くあなたを見つけた。

「おかえり」と声をかけると、「はいこれ」と右手からねこじやし、左手から小石ぎゅっと握っていた温もりが残っている。

毎日通る道であなたはいつも宝物を見つけるね。私はただ通り過ぎるだけの道なのに。しゃがんで蟬の抜け殻を拾い、干からびたミミズに群がる蟻をじっと観察し、数分の道のりを何倍もの時間をかけて帰ってくる。カラスノエンドウの実が緑から黒に変わり、弾けたことを目を輝かせて教えてくれたね。

日々の変化を捉えるあなたの豊かな感性に、母は心を打たれているよ。後先のことばかり考えていた私に、今日の前に幸せがあることを教えてくれた。このキラキラした感性をずっと大切にしたいね。正直、溜まってきた石の置き場に困っているけれど、今日は何を握りしめて帰ってくるか、楽しみにしているよ。

大賞作品 藤原和香奈さん(和歌山県)

「母の愛」って何？私はそれを持っているのかな？八年前にきみを産んで母になってから、ずっと自問自答しています。

好物を食べている時にきみから「ちようだい」と言われて、渋々差し出す。四六時中話しかけてくるきみに「静かに過ごさせて」と言ってしまったこともある。結局私は自分の気持ちが大切だし、自分を犠牲にできない母親なのだ、その度少し落ち込みます。

それでも：運動会で緊張するきみの表情にギョツと胸が苦しくなったあの時。水遊びではしゃぐ姿にこの上なく幸福な気分が包まれたあの時。初めて一人電車に乗る君を見送った後、何度も位置情報を確認してはオロオロそわそわしたあの時。私は紛れもなくきみの母であったと感じます。

私の一番の願いは、きみが誰の為でもなく自分の大切なものを自分で選びとる人生を歩んでくれること(私もそうであったように)。それが私なりの母の愛だと今は思っています。

準大賞作品 長井さとみさん(東京都)



二瓶町長から表彰を受ける藤原さん(左)

第24回母から子への手紙コンテストの表彰式は12月7日、学びいので行われ、大賞を受賞した藤原和香奈さん(和歌山県)ら受賞者をたたえました。

表彰式では、二瓶盛一実行委員長があいさつし、各賞の受賞者に賞状を手渡しました。

また、審査委員長を務めた芥川賞作家の玄侑宗久さんをはじめ、作家の鶴賀イチさん、絵本作家の松本春野さんが講評。松本さんが「絵本の世界から伝える、親と子の絆」と題して講演を行いました。

母から子への手紙コンテストは、本町出身の医学者・野口英世博士の母シカが、渡米中の野口博士に宛てて書いた手紙にちなみ、母と子の絆を感じてもらおうと、平成14年から毎年開催されており、全国各地からわが子への愛情をつづつた多くの手紙が寄せられています。

今年のコンテストには、全国から昨年を上回る1355点の応募があり、町内の1次選考委員が上位50作品を選出。最終選考会では、玄侑さん、鶴賀さん、松本さん、1次選考委員代表の楠美枝子さんの4人が厳正に審査し、大賞などの各賞を決定しました。

今月号では、大賞と準大賞作品を紹介します。



【撮影日】 12月11日
【撮影場所】 猪苗代第二小学校

今月の表紙

猪苗代第二小の放課後子ども教室で、児童たちがしめ縄づくりに挑戦しました。写真は、講師の安部なかせさんと一緒に、ねじった稲わらの束を編んでいる土屋心徠さん(右)です。

Contents — 【目次】

- 02 年頭のごあいさつ
- 04 Pick Up
— 母から子への手紙コンテスト表彰式 —
- 06 まちのわだい
- 08 第3回いなわしろみらい会議2025／地域おこし協力隊通信
- 09 スクールトピックス／「笑顔つむぐりレー」
- 10 いなわしろタウンページ
- 18 暮らしの情報広場
- 20 みんなの美術館／食生活改善推進員コーナー



LINEなどによる情報配信



マチイロ
マチを好きになるアプリ



ios 用



Android 用